

2013.11 改訂16版

エスロン[®]パイプ[®]〈硬質ポリ塩化ビニル管〉接合用

エスロン[®]接着剤

滑剤・接合剤



CONTENTS

安全上のご注意	P.2
接着剤	P.3-5
滑剤(ゴム輪接続用)	P.6
接合剤(下水道用)	P.6
接着剤による接合手順	P.7-8
接着接合の注意点	P.9
滑剤によるゴム輪受口の接合手順	P.10
ドレンタイトによる接合手順	P.11
エスロンBVによる接合手順	P.11
製品安全データシート(MSDS)	P.12-13
日本水道協会の接着剤適合基準について	P.14

※容器の表示について

接着剤は危険物(第四類第一石油類)に該当します。各製品容器には取扱い上の注意、接合時の注意等が表記されておりますので、ご使用前に必ずお読みください。

GHS表記内容	消防法による表記	対象製品
   引火性液体 及び蒸気 急性毒性 (低毒性) 発がん性/ 生殖毒性等	第四類第一石油類 危険等級Ⅱ 火気厳禁	No.65S No.70S No.73S No.75S No.73Sブルー No.75Sブルー-N No.80S No.83Sホワイト No.100S No.100Sグリーン エスロタイトプライマー
  引火性液体 及び蒸気 発がん性/ 生殖毒性等	第二类引火性個体 危険等級Ⅲ 火気厳禁	マスタイト マスシーラント エスロンBV
表記不要	表記不要	ドレンタイト、エスロタイト リブタイト、滑剤類

安全上のご注意

安全かつ適切に使用していただくために、必ずお守りいただくことを説明しています。

施工に当たっては、各々の管・継手の「施工ハンドブック」等を参照の上、理解して使用してください。表示と意味は以下の通りです。



警告

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、使用者が死亡、または重傷を負う危険性が想定される内容が記載されています。



注意

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、使用者が障害を負う危険性が想定される内容及び物的損害の発生が想定される内容が記載されています。

誤った取り扱いによる事故を未然に防ぐために下記事項をお読みになり、よく理解した上でご使用ください。



警告

●保管は法令に従って

接着剤は消防法の危険物に該当します。保管にあたっては、法令及び市町村条例を守ってください。また、使用後は火気を避けて冷暗所に保管してください。

●使用は法令に従って

エスロン接着剤は、厚生労働省の有機溶剤中毒予防規則において「第二種溶剤等」に該当します。屋内で、接着剤の1時間当たりの使用量が、以下の許容使用量を超える場合には、「有機溶剤中毒予防規則」が適用され、「有機溶剤取り扱い作業主任」の資格が必要となります。詳細は所轄の労働安全基準監督署にご確認ください。

接着剤許容使用量 $W(\text{g/時間}) = 0.4(\text{g/m}^3 \cdot \text{時間}) \times \text{部屋の容積}(\text{m}^3)$

(部屋の容積は、床から高さ4m以下の部分とし、150m³を超える場合は、150m³で計算する。)

尚、接着剤の1時間あたりの使用量は、実際に使用する接着剤の量に0.6を乗じた数値です。

●換気・火気に注意

有機系溶剤による中毒と火災を防止するため、作業現場では換気に注意し、火気を避けてください。

●目に入ったら

誤って目に入った場合は、こすったりしないで速やかに医者診断を受けてください。

●手洗いとうがい

使用後は、手洗いとうがいを充分に行ってください。

●手袋の着用を

かぶれ、ただれを防ぐために手袋を着用し、直接皮膚に触れないよう注意してください。万一皮膚に触れた場合は、速やかに石けんと水でよく洗い落としてください。

漏水・接続不良等の事故を防ぐため必ずお守りください。



注意

●他用途への流用は禁止

エスロンパイプ・継手の接着には専用のエスロン接着剤をご使用ください。他の用途に流用しないでください。

●古いもの、異物混入したものは使わない

土砂・水の混入したものや、古くなって固まりかけた接着剤をシンナーなどでうすめて使用しないでください。接着効果が低下し、抜けの原因となります。

●初期のたまり水は捨ててください

エスロン接着剤には有機系溶剤が含まれています。施工に於いて、接着剤の塗布が多いとき、また施工後乾燥が十分でない内に水を流すと水が臭う場合があります。初期のたまり水は捨ててください。

●混合しないでください

異種の接着剤同士、または古い接着剤と新しい接着剤を混合しないでください。接着効果が低下し、抜けの原因となります。

●ゴム輪接合には専用の滑剤を

ゴム輪接合にあたっては、所定の専用滑剤を使用してください。接着剤や油、グリスはゴム輪を傷める恐れがありますので、絶対に使用しないでください。

●二液型接合剤は正しく混合

二液型の樹脂系接合剤を使用する場合は接着効果を発揮させるため、取扱い説明書に従って必ず二液を所定の割合で混合してください。

●面取り

接合する前には必ず管端の面取りを行い、必ず標線を記入してください。

●塗布面の清掃

接合面の油・水気・ほこりをふきとってから、継手、パイプの順に接着剤をできるだけ均一に塗布してください。

●塗布後速やかに挿入

接着剤塗布後、素早く管を継手に挿入し、抜け出なくなるまで押さえてください。

●色写り注意

青色および緑色接着剤は床などにこぼした上に床材を敷設すると、色が浸透する場合があります。こぼれた接着剤は拭き取ってください。

●再挿入の禁止

接着剤を塗布し一度挿入して抜け戻った管・継手は、接着剤の再塗布の有無にかかわらず、再挿入して使用しないでください。

接着効果が低下し、抜け漏水の原因になります。

接着剤

接着剤名称	特 長		対象呼び径 13 150 600 50 300	用 途							
	色 調	粘 度 (参考値)		水 道	給湯 高温排水	下水・農水	排水・通気・ 通信ケーブル保護管	建物排水通気	空調 ドレン		
No. 65S 	透 明	500 mPa・s		○			◎				
No. 70S 	透 明	2,500 mPa・s		◎			◎	◎			
No. 73S 	透 明	500 mPa・s		◎			◎	◎	◎	◎	◎
No. 75S 	透 明	150 mPa・s		◎			○	◎	◎	◎	◎
No. 73S ブルー 	青 色	500 mPa・s						◎	◎	◎	◎
No. 75S ブルー-N 	青 色	150 mPa・s						◎	◎	◎	◎
No. 80S 	透 明	500 mPa・s		○	◎			○			
No. 83S ホワイト 	白 色	500 mPa・s		○	◎			○			
No. 100S 	透 明	500 mPa・s				◎					
No. 100S グリーン 	緑 色	500 mPa・s				◎ (排水専用)					

※対象呼び径は目安であり、温度条件や作業時間によって異なります。
 ※用途区分では、推奨品に◎、使用可能品に○を記載しています。

塩ビ管用接着剤

※接着剤について「日本水道協会規格準拠」と記載されているものは、「日本水道協会規格JWWA S 101 水道用硬質塩化ビニル管の接着剤」に規定される材料・製造方法・組成とし、品質について自社にて試験を行い、規格に適合することを確認したものです。

接着剤塗布量

呼び径	13	16	20	25	30	40	50	65	75	100	125	150	200	250	300	350	400	450	500	600
塗布量 (g)	0.7	1.0	1.5	2.0	2.5	3.5	5.0	6.5	10	15	20	30	55	90	125	175	220	275	350	500



No.65S



塩ビ管用接着剤

注意 大口径管に塗布する場合、別途、塗布用のハケ（市販品）をご用意ください。



低粘度速乾性=A
粘度: 500mPa・s

容量	品番	梱包数	備考
1kg	S651	24	筆付



No.70S



塩ビ管用接着剤



高粘度速乾性=B
粘度: 2500mPa・s

容量	品番	梱包数	備考
500g	S705G	40	筆付
1kg	S701	24	筆付
15kg	S70-15	1	受注生産品



No.73S



塩ビ管用接着剤



低粘度速乾性=A
粘度: 500mPa・s

容量	品番	梱包数	備考
500g	S735G	40	筆付
1kg	S731	24	筆付
15kg	S73-15	1	受注生産品



No.75S



塩ビ管用接着剤

注意 乾きやすいため、夏季や大口径管の接続はお避けください。



低粘度速乾性=A
粘度: 150mPa・s

容量	品番	梱包数	備考
500g	S755G	40	筆付
1kg	S751	24	筆付
15kg	S75-15	1	受注生産品



No.80S



耐衝撃性硬質ポリ塩化ビニル管(HIパイプ・ゴールド+(プラス))用

注意 HIパイプ・ゴールド+(プラス)には必ずNo.80S、No.83Sホワイトを使用してください。※HI管・継手と一般の塩ビ管の接着にもご使用いただけます。



低粘度速乾性=A
粘度: 500mPa・s

容量	品番	梱包数	備考
500g	S805G	40	筆付
1kg	S801	24	筆付

塩ビ管用接着剤

※接着剤について「日本水道協会規格準拠」と記載されているものは、「日本水道協会規格JWWA S 101 水道用硬質塩化ビニル管の接着剤」に規定される材料・製造方法・組成とし、品質について自社にて試験を行い、規格に適合することを確認したものです。



No.83S
ホワイト



耐衝撃性硬質ポリ塩化ビニル管(HIパイプ・ゴールド+(プラス))用

注意 HI継手透明ブルーにはNo.83Sホワイトを使用してください。
※HI管・継手と一般の塩ビ管の接着にもご使用いただけます。



低粘度速乾性=A
粘度: 500mPa・s

容量	品番	梱包数	備考
500g	S835G	40	筆付
1kg	S831	24	筆付



No.73S
ブルー



排水・通気空調設備管、ケーブル保護管用

注意 エスロン透明DV継手・透明DV-VU継手には接着剤No.73SブルーまたはNo.75SブルーNを使用してください。水道用途には使用しないでください。

低粘度速乾性=A
粘度: 500mPa・s

容量	品番	梱包数	備考
500g	S735GB	40	筆付
1kg	S731B	24	筆付



No.75S
ブルーN(低粘度)



排水・通気空調設備管、ケーブル保護管用

注意 エスロン透明DV継手・透明DV-VU継手には接着剤No.73SブルーまたはNo.75SブルーNを使用してください。水道用途には使用しないでください。

低粘度速乾性=A
粘度: 150mPa・s

容量	品番	梱包数	備考
500g	S755GB	40	筆付
1kg	S751B	24	筆付



No.100S



耐熱性硬質ポリ塩化ビニル(HTパイプ)用

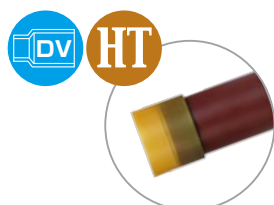
注意 HTパイプには必ずNo.100Sを使用してください。

低粘度速乾性
粘度: 500mPa・s

容量	品番	梱包数	備考
250g	S1H2G	80	筆付
500g	S1H5G	40	筆付



No.100S
グリーン



耐熱性硬質ポリ塩化ビニル(HTパイプ)用(排水専用)

注意 エスロンHTDV継手・透明HTDV継手とHTパイプの接続用途以外には使用しないでください。

低粘度速乾性
粘度: 500mPa・s

容量	品番	梱包数	備考
500g	S1H5GG	40	筆付

滑剤(ゴム輪接続用)



ベルソープ

上下水道・農水・電力通信用

注意 塩ビ差込ソケット(ES)、伸縮継手(NJK)には、エスロン滑剤No.1をご使用ください。



容量	品番	梱包数
1kg	BSP1	4
1kg (ハケ付)	BSP1H	4
2kg	BSP2	2



No.1

塩ビ差込ソケット(ES)、伸縮継手(NJK)用

注意 水道法に定める水質衛生基準により、飲料用配管には使用しないでください。



容量	品番	梱包数
1kg	KZ11	10
2kg	KZ12	6

滑剤塗布量

呼び径	40	50	75	100	125	150	200	250	300	350	400	450	500	600
塗布量(g)	4	5	7	10	15	20	25	35	50	65	90	115	140	190

接合剤(下水道用)



ドレンタイト

塩ビ製支管と
コンクリート管・陶製管接合用



エスロタイト

塩ビ管用支管接合剤

標準使用量

取付管呼び径	100～200
エスロタイト使用量 (主剤硬化剤混合)	350g/カ所
プライマー使用量	20g/カ所

容 量	品 番	梱包数	使用温度範囲(℃)	備 考	
No.503 (一般用)	2kgセット	N503-02	6	15～40	A剤・B剤各1kg
	10kgセット	N503-10	1	15～40	A剤・B剤各5kg
No.502 (冬用)	2kgセット	N502-02	6	0～15	A剤・B剤各1kg
	10kgセット	N502-10	1	0～15	A剤・B剤各5kg

容量	品番	梱包数	備考
1セット	ESTABPS	1セット	(A・B各175g×5、プライマー100g)



リブタイト

リブパイプ専用支管接合剤

標準使用量

取付け管呼び径	100～200
本管呼び径	
150、200	500～700g/カ所
250、300	700～900g/カ所
350、450	900～1200g/カ所

容 量		品 番	梱包数	使用温度範囲(℃)	備 考
一般用	10kgセット	RIBT10I	1セット	20以下	主剤・硬化剤各5kg
	2kgセット	RIBT2I	4セット		主剤・硬化剤各1kg
夏用	10kgセット	RIBT10N	1セット	15～35	主剤・硬化剤各5kg
	2kgセット	RIBT2N	4セット		主剤・硬化剤各1kg



エスロンBV

塩ビ管用支管接合剤

容量	品番	梱包数	備考
200g	ESTABV	20	チューブ入



マスタイト・マスシーラント

カシヨマス用シール剤



ハイシールNo.2

スパイラル推進管用接合剤

容量	品番	梱包数	備考
マスタイト200g	MSTT2G	50	チューブ入
マスシーラント333ml	MSC333	20	ガンタイプカートリッジ
シールテープ50mm×15m	MST	30	t=0.55mm

容量	品番	梱包数	備考
200g	HS2T	10	チューブ入
400g	HS4CS	1	カートリッジ

接着剤による接合手順

接着接合

TS継手・HI-TS継手の接合方法

配管工具および材料

- 塩ビ用ノコギリまたはパイプカッター
- ヤスリ（鉄工用平型荒目）
- メジャー
- マジックインキ
- エスロン接着剤
- ウエス
- 工業用アルコール
- 玉掛ワイヤーロープまたは挿入バンド
- エスロン挿入機またはヒッパラー



1 管の切断

切断箇所は正しく寸法を出し、マジックインキ等で管軸に直角に切断線を記入し塩ビ用ノコギリを用いて切断します。



2 管差口の面取り

管差口は、やすりなどを用いて内外面全周にわたり糸面取りをおこないます。特に管を切断した場合は、バリやカエリのないよう管端面もきれいに仕上げることを心がけてください。
面が取れていないと、接続時受口部の接着剤を削りとってしまい、抜けの原因となるので、必ず糸面取りをしてください。



3 挿入長さの記入

継手受口に管差口を軽く挿入して、管が止まる位置（ゼロポイント）が受口長さ（ ℓ ）の1/3～2/3の間にあることを確認した後、呼び径 40 以下は差口に受口長さを記入し、呼び径 50 以上の場合は、ゼロポイントに受口長さの1/3の長さを加えた位置に挿入線を記入してください。

単位:mm

呼び径	13	16	20	25	30	40	50	65	75	100	125	150
ℓ	26.0	30.0	35.0	40.0	44.0	55.0	63.0	61.0	64.0	84.0	104.0	132.0
$1/3\ell$	—	—	—	—	—	—	21	20	21	28	35	44



4 受口・差口の清浄処理

継手受口内部や管差口に付着した砂、土、水分等は乾いたウエスできれいに拭き取ってください。
※特に接合部に油などが付着している場合は、工業用アルコールを少量用いて清浄してください。



ワイヤーロープと挿入機の取付け

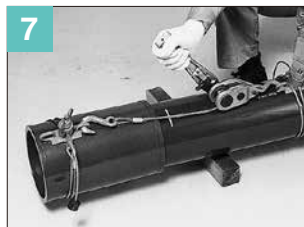
呼び径 50 以下は、作業条件がよければ手で挿入可能です。
呼び径 65 以上で挿入が困難な場合は挿入機を使用してください。



接着剤の塗布

管種に合った専用の接着剤を使用して、継手の内面、管の外面の順に適量を均一に塗布してください。

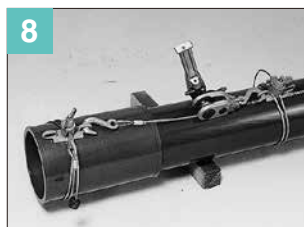
【注意】 継手内面は、薄く全面に塗布してください。



管の挿入

継手受口と管差口の軸を合わせ、標線の位置まで挿入します。

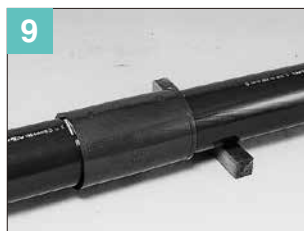
- 【注意】** 接着剤塗布後、できるだけ素早く挿入し、はみ出した接着剤は拭き取ってください。
- 【注意】** 挿入途中で停止することなくすみやかに一気に挿入してください。（ねじらず挿入してください。）
- 【注意】** たたき込みや斜め挿入は漏水などの原因となりますので絶対に行わないでください。



保持・養生

下表を目安に保持し、抜け出ないことを確認してください。

気温（季節）	呼び径	
	50以下	65～150
夏 場	30秒以上	1分以上
冬 場		2分以上



溶剤蒸気の除去

【注意】 配管完了後は、内面の接着剤の溶剤蒸気除去のため、必ず通風してください。

エスロンHI継手透明ブルーの接合方法（品揃え 呼び径13～50）

HI継手透明ブルーは接着剤の塗布状況、管の挿入状況等が確認できる新開発の継手です。管の切断、管差口の面取りまでは上記と同様の方法で行ってください。

1 ゼロポイントの記入

●接着剤をつけずに管を挿入します。
●管が止まる位置（ゼロポイント）が受口長さの1/3～2/3の間にあることを確認し、継手外面にマーキングします。

呼び径	13	16	20	25
受口長さ（ ℓ ）	26.0	30.0	35.0	40.0
$\ell \times 1/3$	—	—	—	—

2 清浄処理

●乾いたウエスで水、土、ほこりをふき取ります。
※特に接合部に油などが付着している場合は、工業用アルコールを少量用いて清浄してください。

3 挿入固定治具の取付け

●管と継手に固定治具を取付けます。
※挿入が困難な場合には挿入機を使用してください。

4 接着剤の塗布

継手内面、管外面の順に均一に塗布する。
（塗忘れ）
（下側を特に注意）
必ずエスロン接着剤No.83Sホワイトをご使用ください。

5 管の挿入

必ず奥まで挿入してください。
※接着剤塗布後の管挿入はできるだけ素早く行ってください。
（たたき込み）
（斜め挿入）
（ねじらず挿入）
●管が入らない
【注意】 挿入は途中で停止することなくすみやかに一気に挿入してください。（ねじらずに挿入してください）

6 保持・養生

保持時間は30秒以上。
●荷重をかけたまま保持します。
【注意】 はみだした接着剤はウエスなどでふき取ってください。

DV継手・DV-VU継手の接合方法



管の切断

切断箇所は正しく寸法を出し、マジックインキ等で管軸に直角に切断線を記入し、塩ビ用ノコギリを用いて切断します。

注意 管が変形したものやすり傷のついたものは切り除いてください。



管差口の面取り

管差口は、やすりなどを用いて内外面全周にわたり糸面取りをおこないます。特に管を切断した場合は、バリやカエリのないよう管端面もきれいに仕上げることを心がけてください。

面が取れていないと、接続時受口部の接着剤を削りとりてしまい、抜けの原因となるので、必ず糸面取りをしてください。



挿入長さの記入

受口長さ (ℓ) と同じ長さの挿入標線を記入してください。

単位: mm

呼び径	30	40	50	65	75	100	125	150
ℓ	18	22	25	35	40	50	65	80

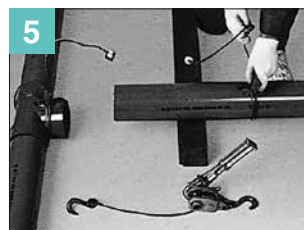
200	250	300
105	125	140



受口・差口の清浄処理

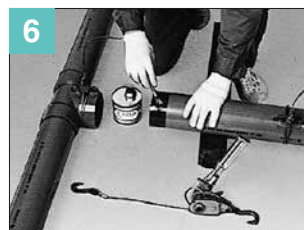
継手受口内部や管差口に付着した砂、土、水分等は乾いたウエスできれいに拭き取ってください。

※特に接合部に油等が付着している場合は、工業用アルコールを少量用いて清浄してください。



ワイヤーロープと挿入機の取付け

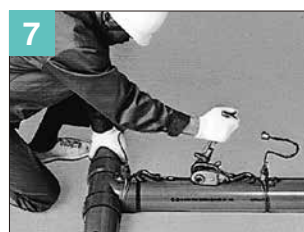
挿入が困難な場合には挿入機を使用してください。



接着剤の塗布

管種に合った専用の接着剤を使用して、継手の内面、管の外側の順に接着剤を均一に塗布してください。

注意 継手内面は、薄く全面に塗布してください。



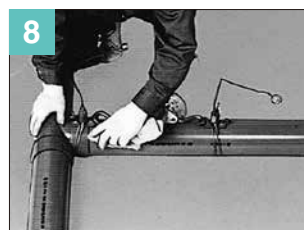
管の挿入

継手受口と管差口の軸を合わせ、標線の位置まで挿入します。

注意 接着剤塗布後、できるだけ素速く挿入し、はみ出した接着剤は拭き取ってください。

注意 挿入は途中で停止することなくすみやかに一気に挿入してください。(ねじらず挿入してください。)

注意 たたき込みや斜め挿入は漏水などの原因となりますので絶対に行わないでください。



保持・養生

荷重をかけたまま保持します。30秒以上保持し、抜けのない事を確認してください。

注意 はみだした接着剤はウエスなどで拭き取ってください。



9 溶剤蒸気の除去

注意 配管完了後は、内面の接着剤の溶剤蒸気除去のため、必ず通風してください。

透明DV継手・DV-VU継手の接合方法 (DV継手: 呼び径30~100、DV-VU継手: 呼び径30~125)

管の切断と管差口の面取りは、上記と同様の方法で行ってください。

1 挿入標線の記入

●受口長さと同じ長さの挿入標線を記入してください。

呼び径	30	40	50	65	75	100	125
受口長さ(ℓ)	18	22	25	35	40	50	65

2 清浄処理

●乾いたウエスで水、土、ほこりをふき取ります。
※特に接合部に油等が付着している場合は、工業用アルコールを少量用いて清浄してください。

3 挿入固定治具の取付け

●挿入が困難な場合には挿入機を使用してください。

4 接着剤の塗布

●適量のエスロン接着剤No.73Sブルー、またはNo.75Sブルー-Nを薄く均一に、継手の内面、管の外側の順に塗布します。

必ずエスロン接着剤No.73Sブルー、またはNo.75Sブルー-Nをご使用ください。

5 管の挿入

●標線まで確実にまっすぐ挿入します。

注意 1. 挿入は途中で停止することなくすみやかに一気に挿入してください。(ねじらず挿入してください)
2. たたき込みや斜め挿入は漏水などの原因となりますので絶対に行わないでください。

6 保持・養生

●荷重をかけたまま保持します。

注意 はみだした接着剤はウエスなどでふき取ってください。

注意 屋上などで光線が通過して藻の発生が考えられる場合には、遮光テープを巻いてください。

接着接合の注意点

接着接合では、①接着剤の適量塗布、②十分な乾燥をした後に、③通水加圧し、④初期のたまり水は飲料に供しないにご注意いただくことでより安全な配管布設ができます。

●接着剤の塗布量

(参考) 1箇所あたり

呼び径	13	16	20	25	30	40	50	65	75	100	125	150	200	250	300	350	400	450	500	600
塗布量 (g)	0.7	1.0	1.5	2.0	2.5	3.5	5.0	6.5	10	15	20	30	55	90	125	175	220	275	350	500

- ▲注意 ●異種の接着剤同士、または古い接着剤と新しい接着剤を混合しないでください。接着効果が低下し、抜けの原因となります。
●水・土などの混入したもの、接着剤特有の刺激臭のないもの、ゼリー状になったものは使用しないでください。
●材料発注は現物に於けるロス及び季節による増減を考慮して3割程度余分に見込んでください。

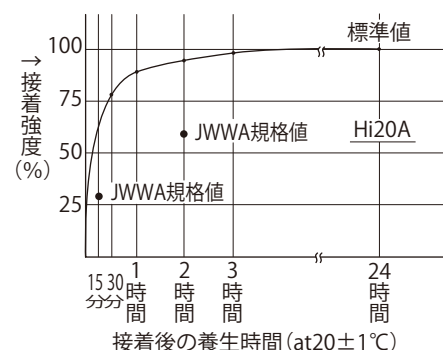
●乾燥

- ▲警告 配管直後から、仕切弁・空気弁・端部を開口し、接着剤溶剤蒸気を配管から排除しやすいようにしてください。溶剤蒸気を排除し接着剤を乾燥させることで、高い接着強度の発現、使用時（通水時）の溶剤臭気発生防止、ソルベントクラックによる管の破損防止に効果があります。上記項目に加え、以下の項目を実施いただくより効果的です。

- ▲注意 ●5℃以下になる季節や地方では、送風機で管内の溶剤蒸気を除去してください。送風機はより低圧大容量のものが望ましく、少なくとも4～5時間以上運転すると効果的です。
●やむを得ず通水による溶剤除去を行う場合は、呼び径50以下では接着30分後、呼び径65以上では1時間以上経過した後に無圧で通水を行ってください。
●管継手を数カ所接着接合したユニットを、両端部開口して乾燥させた後に、ユニット同士を接着接合することで乾燥が促進されます。

●エスロン接着剤の養生時間と接着強度について

- ▲注意 右のグラフは、例としてHIゴールド+をNo.80Sで接着した場合の、接着後養生時間と接着強度発現の関係を示したものです。ただし、乾燥途中の状況を参考として示すもので保証する数値ではありません。
管と継手の接着部の強度は、呼び径や接着剤の塗布量、温度、保持時間および挿入量によって変化します。



●SC (ソルベントクラック) 対策について

- ▲注意 SC (Solvent Cracking) とは、接着剤に含まれている有機溶剤が塩ビ管に作用して、クラック（微細な亀裂）を起こすことをいいます（防錆剤等でも同じことが起こります）。特に低温時（冬季）や接着剤の過量塗布によって起こりやすい傾向がありますので、配管時には次のような対策をとってください。

対策項目		対策
標準接合での留意点	接着剤の適量使用	管種に適した専用接着剤を用い、薄く均一に塗布すること。
	接着剤の拭き取り	接着後にはみ出した接着剤はウエスで必ず拭き取ること。併せて、管設置時に接着剤が付着しないようにこぼれた接着剤も拭き取っておくこと。
管布設での注意点	乾燥	上記の「●乾燥」の注意点を参照ください。
	砕石基礎や杭、配管支持への注意	固いものが管に継続して接触し続けると、管に局部的に応力が発生し、SCの原因となります。埋設配管では砕石基礎や固定杭等での埋め戻しを避けたり、設備系の配管では固定方法に注意すること。

●通水試験時の注意

- ▲注意 通水試験時の加圧は、最終の接着接合が終了してから少なくとも24時間以上経過してから実施してください。
加圧は、必ず水圧にて行い、エア抜きを確実に行った後に加圧してください。制水弁の操作による通水加圧の場合、制水弁を徐々に開き、急激な加圧は避けてください。管が破損する恐れがあります。
- ▲警告 空気圧で加圧を行った際に、万が一、管および継手が割れた場合には空気の膨張で激しく飛散して重大な怪我をする恐れがあります。

●通水試験開始可能時間



●接着剤の臭いについて

- ▲注意 エスロン接着剤には有機溶剤が含まれています。
施工において接着剤の塗布量が多いとき、また施工後から使用時の間での有機溶剤の乾燥が不十分な場合、通水した水が有機溶剤の臭いがする場合があります。初期のたまり水を捨てたり、通風等での乾燥を十分に行ったり、接着剤を適量塗布することで臭いの発生を抑えることができます。

滑剤によるゴム輪受口の接合手順

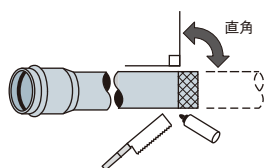
(例. 水道用ベルパイプLの場合)

〈配管工具及び材料〉

- ベルサポート
- 塩ビ用ノコギリ
- エスロン面取機
- 玉掛けワイヤーロープ
- 挿入機(ヒッパ、シメラなど能力 1/2ton)
- メジャーおよび油性ペン
- 滑剤および刷毛
- ウエス
- すき間ゲージ

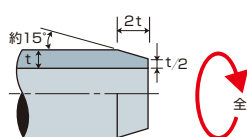
1 管の切断

切断箇所油性ペンで管軸に直角に標線を記入し、塩ビ用ノコギリで直角に切断して下さい。



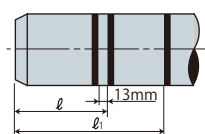
2 差口の面取り

切断した管端は、鉄工用荒目平ヤスリまたは、エスロン面取機を用いて15°面取りします。(定尺管は面取り済み)



3 挿入長さの記入

(管切断の場合)
接続時の管挿入長さの目安とするため、差口側に挿入長さを記入します。(定尺管は記入済み)



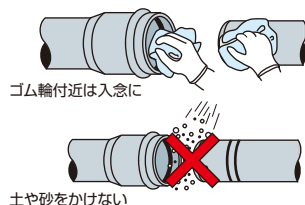
単位:mm

呼び径	40	50	75	100	125	150	200	250	300
ベルパイプ・L Hベルパイプ・ゴールド+(プラス)	ℓ	100	107	120	132	138	152	175	194
Hベルパイプ・ゴールド+(プラス)	ℓ	—	156	166	179	—	201	222	—
	ℓ ₁	—	231	241	254	—	276	297	—

※他の管につきましては、各管材の施工ハンドブック等をご参照ください。

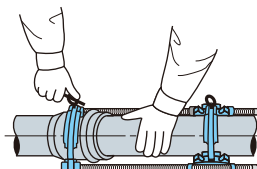
4 管の清浄処理

受口内面と差口管外面に付着している土や砂はウエスで拭きとります。
ゴム輪を外した場合は、ゴム輪の正しい装着方法を参考にしてください。



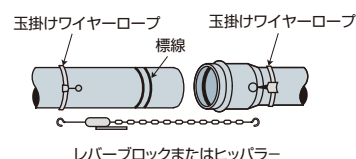
5 挿入機の取り付け

●ベルサポートによる挿入
(ベルパイプロング・ゴールド+(プラス)および、呼び径150以下の場合)
クランプ間隔を最大に開き、固定側クランプに受口を、可動側クランプに差口をセットし、締付けレバーで固定します。
可動側クランプは、挿入時に滑らないようにしっかり締め込んでください。



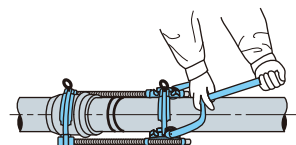
5 挿入機の取り付け

●玉掛けワイヤーロープによる挿入
(呼び径200~300の場合)
受口と差口の両側に玉掛けワイヤーロープを1本づつ掛け、挿入機を取付けます。ハンマーでのたたき込みや、建設機械での挿入は行わないでください。



6 トルクレバーの取り付け

トルクレバーを挿入用トルクレバー受にセットします。
この際、ラックとピニオンの噛み合いを確認し、異物の噛み込みのないようにしてください。

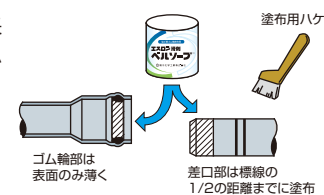


7 滑剤の塗布

エスロン滑剤ベルソープを差口の面取り部から挿入長さの1/2程度の範囲にハケで塗布します。受口のゴム輪には、少量塗布してください。

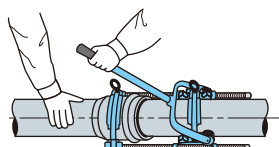
■標準使用量(参考)

呼び径	40	50	75	100	125	150	200	250	300
使用量(g)	4	5	7	10	15	20	25	35	50



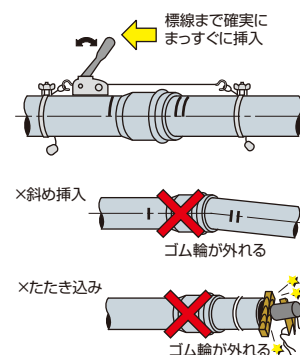
8 管の挿入

トルクレバーの歯車を噛み合わせた状態で、ハンドルを受口側に動かすと管が挿入できます。2本の標線の間まで差し込んでください。
トルクレバーはラチェット式になっておりますので、滑らすようにハンドルを管側に戻し、再度受口側に動かす動作を繰り返せば簡単に挿入できます。



8 管の挿入

挿入線を上にして受口と差口の管軸を合わせて挿入します。挿入荷重が異常に大きいときは、挿入機を外してゴム輪を再点検してください。2本の標線の間まで差し込んでください。

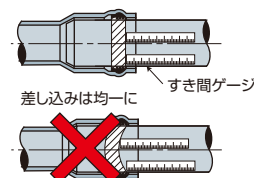


■呼び径別挿入力 単位:kg

呼び径	40	50	65	75	100	125	150
挿入力	20	25	35	40	55	60	70

〈接続部の点検〉

挿入完了後、受口にすき間ゲージ、または金属製薄板を差し込んでゴム輪が全周にわたって均一な深さにあるかどうかを点検します。



ドレンタイトによる接合手順

標準使用量(単位: g)

1) マンホール継手取付け部

管種 呼び径	円形管	卵形管
200	900	1000
250	1000	1200
300	1200	1400
350	1400	1600
400	1500	1800
450	1700	2000
500	1800	2200
600	2200	—

⚠ 積算にはロス分を見込んで表の値の1.3倍としてください。

2) 塩ビ管と支管 (A90SHR) の場合

取付け管呼び径 本管呼び径	100	125	150	200
200~ 300	650	800	950	1280
350~ 450	690	860	1040	1370
500~ 800	860	1080	1290	1680
900~1350	1050	1350	1650	2120
1500~2000	1280	1610	1950	2400

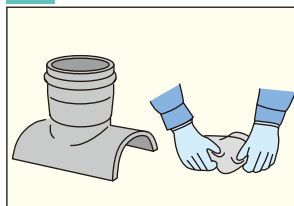
⚠ ドレンタイトだけで接合する量を表示しています。

3) 鉄筋コンクリート管と塩ビ支管 (S90SHR) の場合

取付け管呼び径 本管呼び径	100	125	150	200
200~ 300	800	900	1000	1200
350~ 450	850	950	1050	1250
500~ 800	900	1000	1100	1300
900~1350	1000	1100	1200	1400
1500~2000	1100	1200	1300	1500

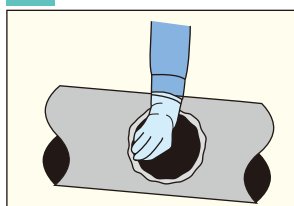
ドレンタイトの接合方法

1 混練



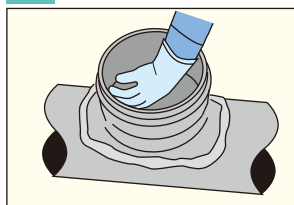
主剤 (A剤) と硬化剤 (B剤) を色ムラがなくなるまで十分混練する。混練後約15分で硬化が始まるので1回の使用量毎に手で混練する。

2 ドレンタイトの盛付け



まず、ヒューム管側の穿孔部全周にドレンタイトを圧着盛付ける。

3 接合



支管のサドル部全周にドレンタイトを均一に盛付ける。管と支管の隙間にドレンタイトがはみ出したり、隙間ができないよう手で充填する。

⚠ 安全上の注意

- ドレンタイトの加温は暖房された自動車や、事務所において養生すると簡単にできます。ストーブなどの火気で直接加温しないでください。
- ドレンタイトを混練するときは、必ず付属の手袋を着用してください。素手で行うと肌荒れの原因となることがあります。

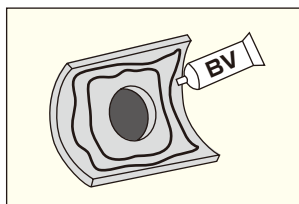
エスロン BV による接合手順

標準使用量(単位: g)

呼び径	100	125	150	200
使用量	100	100	100	100

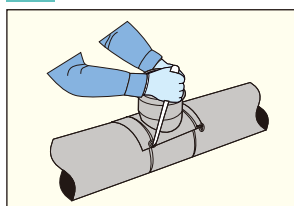
エスロンBVの接合方法

1 エスロンBVの塗布



支管接合面にエスロンBVを塗布する。

2 接合



本管穿孔部に支管を圧着し、シノなどを使用して素早く焼なまし番線で締め付け圧着固定する。

製品安全データシート (MSDS)

作成2010年 6月15日
改訂2011年10月 1日

1.製品名及び会社情報

製品名	エスロン接着剤No.75S
会社名	積化学工業株式会社
住所	〒105-8450 東京都港区虎ノ門2-3-17(虎ノ門2丁目タワー)
担当部門	環境・ライフラインカンパニー 水インフラ事業部
電話番号	03-5521-0552
緊急連絡電話番号	03-5521-0552
FAX番号	03-5521-0558
緊急連絡先	上記担当部門
推奨用途及び使用上の制限	硬質塩化ビニル管接合用接着剤 所定の用途以外には使用しないこと
整理番号	#75S

2.危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性

火薬類	分類対象外
可燃性・引火性ガス	分類対象外
可燃性・引火性エアゾール	分類対象外
支燃性・酸化性ガス	分類対象外
高压ガス	分類対象外
引火性液体	区分2
可燃性固体	分類対象外
自己反応性化学品	区分外
自然発火性液体	区分外
自然発火性固体	分類対象外
自己発熱性化学品	分類できない
水反応可燃性化学品	分類対象外
酸性液体	分類対象外
酸化性固体	分類対象外
有機過酸化物質	分類対象外
金属腐食性物質	区分外
急性毒性(経口)	区分5
急性毒性(経皮)	区分4
急性毒性(吸入:ガス)	分類対象外
急性毒性(吸入:蒸気)	区分4
急性毒性(吸入:粉じん、ミスト)	分類できない
皮膚腐食性・刺激性	区分2
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分2A
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	区分2
発がん性	区分2
生殖毒性	区分2
特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)	区分1(肝臓、脾臓、中枢神経系)、 区分2(肺、腎臓)、 区分3(麻酔作用)
特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)	区分1(腎臓、肝臓、中枢神経系、 末梢神経系)
環境に対する有害性	区分外
環境に対する有害性	区分外
環境に対する有害性	区分外

絵表示又はシンボル



注意喚起語

危険有害性情報

危険
引火性の高い液体および蒸気
飲み込むと有害のおそれ
皮膚に接触すると有害
吸入すると有害
皮膚刺激
強い眼刺激
遺伝性疾患のおそれの疑い
発がんのおそれの疑い
生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
中枢神経系、脾臓、肝臓の障害
肺、腎臓の障害のおそれ
眼気又はめまいのおそれ
長期又は反復ばく露による肝臓、腎臓、中枢神経系、末梢神経系の障害
◇皮膚に付着したり、蒸気を吸入すると皮膚障害や中毒を起こすおそれがありますから、製品安全データシート(MSDS)や取扱説明書などを確認の上、取り扱いには下記の注意事項を守ってください。
◇取り扱い作業場所には、局所排気装置を設けること。
◇容器から出し入れするときは、こぼれないようにすること。
◇取扱い中は、できるだけ皮膚にふれないようにし、必要に応じて防毒マスク又は送気マスク、保護手袋、保護メガネ等を着用すること。
◇取扱い後は、手洗い及びうがいを充分行うこと。
◇容器のフタを密栓し、冷暗所に保管すること。
◇皮膚についた場合は、速やかにふきとり石鹸と水でよく洗うこと。かゆみや炎症が残った場合は医師の診断を受けること。
◇万一眼に入った場合や、蒸気を吸って気分が悪くなった時、又は、誤って飲み込んだ場合には、速やかに医師の診断を受けること。
◇火気のあるところでは使用しないこと。
◇本来の接着用途以外には絶対に使用しないこと。

3.組成、成分情報

単一製品・混合物の区分 混合物

化学名又は一般名 塩化ビニル・酢酸ビニル共重合樹脂系接着剤

成分	含有量(%)	CAS番号	官報公示整理番号(化審法・安衛法)
シクロヘキサノン	30~40	108-94-1	(3)-2376
メチルエチルケトン	25~35	78-93-3	(2)-542
アセトン	15~25	67-64-1	(2)-542
塩ビ酢ビ共重合樹脂	10~20	9003-22-9	(6)-76
すず化合物	0.1~0.3	68109-88-6	(2)-3019 生産国:日本
		15571-58-1	(2)-2307 生産国:台湾

4.応急措置

吸入した場合	被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 必要に応じて医師の診断、手当てを受けること。
皮膚に付着した場合	皮膚を速やかに洗浄すること。 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する前に洗濯すること。 皮膚刺激が生じた場合、気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
目に入った場合	水で数分間、注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していって容易に外せる場合は外すこと。 その後も洗浄を続けること。 医師の診断、手当てを受けること。 直ちに水で口の中を洗浄すること。 直ちに医師の診断、手当てを受けること。 無理に吐かせないこと
飲み込んだ場合	吸入による呼吸器官への刺激、咳、息切れ。 飲込みによる胃腸の刺激、吐き気、嘔吐、下痢。 接触による皮膚の刺激と脱脂および眼の刺激、発赤、痛み。 過度のばく露で麻酔作用、頭痛、めまい、視野狭窄、吐き気、下痢および意識喪失。 救助者は、状況に応じて適切な保護具(有機溶剤用の防毒マスク等)を着用する。
予想される急性症状及び遅発性症状	情報なし
応急措置をする者の保護	情報なし
医師に対する特別注意事項	情報なし

5.火災時の措置

消火剤	炭酸ガス消火剤、粉末消火剤、泡消火剤
使ってはならない消火剤	棒状注水
特有の危険有害性	火災によって刺激性、毒性、又は腐食性のガスを発生するおそれがある。 極めて燃え易い、熱、火花、火炎で容易に発火する。 加熱により容器が爆発するおそれがある。 引火性の高い液体及び蒸気。
特有の消火方法	火元への燃焼源を断ち、消化剤を用いて消火する。大規模火災には、泡消火剤を用いて空気を遮断する。 延焼の恐れのないように、周囲の設備などに散水して周辺を冷却する。 消火活動は可能な限り風上から行い、状況によっては呼吸保護具を着用する。

6.漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	作業者は適切な保護具(8.ばく露防止及び保護措置の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。 漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。 風上から作業し、風下の人を退避させる。 屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。
環境に対する注意事項	河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。
回収、中和	少量の場合、吸着剤(おがくず、土、砂、ウエス等)で吸着させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾等でよく拭き取る。
二次災害の防止策	大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。 付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消化剤を準備する。

7.取り扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	吸入・接触のおそれがあるときは適切な保護具を使用する。 火気厳禁。
局所排気・全体換気	取り扱う場合は、局所排気用、または全体換気の設備のある場所で取り扱う。
安全取扱い・注意事項	周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。 眼、皮膚、衣類に付けないこと。 蒸気、ミスト、スプレーを吸入してはならない。 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。
保管	
保管条件	熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。一禁煙。 冷所、換気の良い場所で貯蔵すること。 施錠して貯蔵すること。

製品安全データシート（MSDS）

8.ばく露防止及び保護措置

設備対策	蒸気を吸入しないように、局所排気装置の設置、設備の密閉化または全体換気を適正に行うことが望ましい。
------	---

	シクロヘキサノン	メチルエチルケトン	アセトン
管理濃度	20ppm	200ppm	500ppm
許容濃度（ばく露限界値、 生物学的ばく露指標）	日本産衛学会(2005年版) ACGIH(2005年版) TLV-TWA	25ppm 200ppm	200ppm 500ppm

保護具

呼吸器の保護具	有機ガス用防毒マスク
手の保護具	不浸透性保護手袋
眼の保護具	有機溶剤対応型ゴーグル
皮膚及び身体の保護具	長袖作業着
衛生対策	取扱い後はよく手を洗うこと。

9.物理的及び化学的性質

物理的状態、形状、色など	無色透明液体
臭い	特有の刺激臭
pH	該当せず
沸点、初留点及び沸騰範囲	56.5℃(沸点)
引火点	－17℃(密閉式)
比重(密度)	0.91～0.95
自然発火温度	420℃
粘度	約150mPa・s

10.安定性及び反応性

安定性	通常の取扱では安定である。
危険有害反応可能性	強酸化剤と激しく反応して発火する。
避けるべき条件	加熱。
混触危険物質	酸化剤。
危険有害な分解生成物	燃焼により一酸化炭素、二酸化炭素を生じる。

11.有害性情報

急性毒性

	含有量 (%)	急性毒性 (経口)	急性毒性 (経皮)	急性毒性 (吸入:ガス)	急性毒性 (吸入:蒸気)	急性毒性 (吸入:粉末・ミスト)
シクロヘキサノン	30～40	区分4 (1544mg/)	区分3 (947mg/)	分類対象外	区分3 (2450ppm)	区分外 (8000ppm)
メチルエチルケトン	25～35	区分5 (2483mg/)	区分外 (>5000mg/)	分類対象外	区分5 (11700ppm)	分類できない
アセトン	15～25	区分外 (>5000mg/)	区分外 (>5000mg/)	分類対象外	区分外 (32000ppm)	分類できない
塩ビ酢ビ共重合樹脂	10～20	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない

急性毒性(経口)	別表区分の急性毒性(経口)の物質を含む。これにより、混合物の推定値ATEmix=2143mg/が算出される。
急性毒性(経皮)	混合物として区分5(飲み込むと有害のおそれ)に分類される。 別表区分の急性毒性(経皮)の物質を含む。これにより、混合物の推定値ATEmix=1722mg/が算出される。
急性毒性(吸入:蒸気)	混合物として区分4(皮膚に接触すると有害)に分類される。 別表区分の急性毒性(吸入:蒸気)の物質を含む。これにより、混合物の推定値ATEmix=4611ppmが算出される。
皮膚腐食性・刺激性	混合物として区分4(吸入すると有害)に分類される。 以下の区分の皮膚刺激性の物質を含む。 区分2:シクロヘキサノン(30～40%)、メチルエチルケトン(25～35%)
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	混合物として区分2(皮膚刺激)に分類される。 以下の区分の眼に対する重篤な損傷・眼刺激性の物質を含む。 区分2A:シクロヘキサノン(30～40%) 区分2B:メチルエチルケトン(25～35%)、アセトン(15～25%)
呼吸器感作性又は皮膚感作性	混合物として区分2A(強い眼刺激)に分類される。 呼吸器感作性:データなし。 皮膚感作性:データなし。
生殖細胞変異原性	以下の区分の生殖細胞変異原性の物質を含む。 区分2:シクロヘキサノン(30～40%)
発がん性	混合物として区分2(遺伝性疾患のおそれの疑い)に分類される。 以下の区分の発がん性の物質を含む。 区分2:シクロヘキサノン(30～40%)
生殖毒性	混合物として区分2(発がんのおそれの疑い)に分類される。 以下の区分の生殖毒性の物質を含む。 区分2:シクロヘキサノン(30～40%)、アセトン(15～25%)
	混合物として区分2(生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い)に分類される。

特定標的臓器・全身毒性 (単回ばく露)

以下の区分の特定標的臓器毒性(単回ばく露)の物質を含む。
シクロヘキサノン(30～40%)>1% 区分1(肝臓、脾臓、中枢神経系)
区分2(肺)区分3(麻酔作用、気道刺激性)
メチルエチルケトン(25～35%)>1% 区分1(中枢神経系)
区分2(腎臓)区分3(気道刺激性)
アセトン(15～25%)>1% 区分3(麻酔作用、気道刺激性)
混合物として区分1(肝臓、脾臓、中枢神経系の障害)
区分2(肺、腎臓の障害のおそれ)区分3(眠気又はめまいのおそれ)に分類される。

特定標的臓器・全身毒性 (反復ばく露)

以下の区分の特定標的臓器毒性(反復ばく露)の物質を含む。
シクロヘキサノン(30～40%)>1% 区分1(腎臓、肝臓、中枢神経系)
メチルエチルケトン(25～35%)>1% 区分1(中枢神経系、末梢神経系)
混合物として区分1(長期又は反復ばく露による腎臓、肝臓、中枢神経系、末梢神経系の障害)に分類される。
以下の区分の吸引性呼吸器有害性の物質の合計10%以上を含むが40℃動粘性率が14mm²/s以上である。
区分2:シクロヘキサノン(30～40%)、メチルエチルケトン(25～35%)、アセトン(15～25%)
混合物として区分外に分類される。

吸引性呼吸器有害性

12.環境影響情報

水生環境急性有害性	区分外
水生環境慢性有害性	区分外

13.廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。
都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。

廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。
容器は清浄してリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

汚染容器及び包装

14.輸送上の注意

国内規制

陸上規制情報	消防法の規定に従う。
海上規制情報	船舶安全法の規定に従う。
航空規制情報	航空法の規定に従う。
国連番号	1133(接着剤・引火性液体を含有するもの)
国連分類	クラス3(引火性液体)
特別の安全対策	消防法の規定に従う。 危険物は当該危険物が転落し、又は危険物を収納した運搬容器が落下し、転倒もしくは破損しないように積載すること。 危険物又は危険物を収納した容器が著しく摩擦又は動揺を起こさないように運搬すること。 危険物の運搬中危険物が著しく漏れる等災害が発生する恐れがある場合には、災害を防止するための応急措置を講ずると共に、もよりの消防機関その他の関係機関に通報すること。 移送時にイエロカードの保持が必要。 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。

15.適用法令

労働安全衛生法

名称等を通知すべき有害物(法第57条の2)	(シクロヘキサノン、メチルエチルケトン、アセトン、すず化合物)
名称等を表示すべき有害物(施行令第18条)	(シクロヘキサノン、メチルエチルケトン、アセトン)
第2種有機溶剤等(有機溶剤中毒予防規則第1条第1項第4号)	(シクロヘキサノン、メチルエチルケトン、アセトン)
第4類 第1石油類 非水溶性液体 (危険等級Ⅲ)	
消防法	該当せず
化学物質管理促進法(PRTR法)	
毒物及び劇物取締法	該当せず

16.その他の情報

引用文献

- 1) 化学物質等安全データシート(MSDS)―第1部:内容及び項目の順序
- 2) 製品安全データシートの作成指針(改訂版)、
社団法人日本化学工業協会
- 3) GHS分類結果データベース、独立行政法人製品評価技術基盤機構
ホームページ
- 4) 化学物質の危険・有害性便覧 中央労働災害防止協会

記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成いたしておりますが、記載のデータや評価に関しては、情報の完全さ、正確さを保証するものではありません。また、記載事項は通常の取り扱いを対象としたものですので、特別な取り扱いをする等の場合には新たに用途、用法に適した安全対策を実施の上、お取り扱い願います。

日本水道協会の接着剤適合基準について

水道用硬質ポリ塩化ビニル管の接着剤〔JWWA S 101-2006〕の規格概要

1 適用範囲

この規格は、水道用硬質ポリ塩化ビニル管（以下管という）および水道用硬質ポリ塩化ビニル管継手（以下継手という）の接合に使用する塩化ビニル樹脂溶液形接着剤及びアクリル樹脂溶液形接着剤（以下接着剤という）について規定する。

注 1. 管：JIS K 6742（水道用硬質ポリ塩化ビニル管 VP、HIVP）

2. 継手：JIS K 6743（水道用硬質ポリ塩化ビニル管継手 TS、HITS）

2 種類

接着剤は速乾性とし、粘度によって表-1の2種類に区分し、次の記号を用いる。

表-1

種類	記号
低粘度	A
高粘度	B

注：VP用とHIVP用とがある。

3 材料および製造方法

3.1 接着剤は塩化ビニル重合体または、アクリル重合体を主原料とし、メチルエチルケトンなどの溶剤で溶解して製造する。

3.2 組成

接着剤の組成は次のものから選択する。

a) 樹脂：塩化ビニル樹脂、アクリル樹脂

b) 溶剤：アセトン、テトラヒドロフラン、酢酸エチル、メチルエチルケトン、シクロヘキサノン

c) 顔料：着色剤、酸化チタン、アンスラキノン系誘導体

4 品質

接着力、乾燥減量および粘度は、所定の試験を行い、表-2に適合しなければならない。

表-2

項目		品質規定
接着力 (MPa)	接合後15分を経過したもの	1.25以上
	接合後2時間を経過したもの	2.50以上
乾燥減量 (%)		30～50
粘度 (mPa・s)	低粘度	100～800
	高粘度	500～3000
浸出性	有機物[全有機炭素(TOC)の量] (mg/L)	0.5以下
	味	異常でないこと
	臭気	異常でないこと
	色度(度)	0.5以下
	濁度(度)	0.2以下
	残留塩素の減量 (mg/L)	0.7以下

5 表示

接着剤の容器への表示は、容器ごとに種類および記号・正味質量・製造業者名および製造年月または、その略号・使用上の注意事項を容易に消えない方法で表示する。

表-3 容器又はラベルの色

種類	低粘度	高粘度
色	青系	赤系

積水化学工業株式会社

環境・ライフラインカンパニー

東北支店

- 設備システム営業所 〒 980-6010 宮城県仙台市青葉区中央4-6-1(住友生命仙台中央ビル)
☎ 022(217)0608
- 北東北事業所 〒 020-0034 岩手県盛岡市盛岡駅前通15-20(ニッセイ盛岡駅前ビル)
☎ 019(624)6000

東日本支店 建築営業部

- 東京設備システム営業所 〒 105-8450 東京都港区虎ノ門2-3-17(虎ノ門2丁目タワー)
☎ 03(5521)0641
- 関東設備システム営業所 〒 330-0854 埼玉県さいたま市大宮区桜木町4-333-13 (OLSビル)
☎ 048(646)0160
- 横浜営業所 〒 222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜3-6-12(日総第12ビル)
☎ 045(474)1810
- 静岡営業所 〒 420-0851 静岡県静岡市葵区黒金町11-7(三井生命静岡駅前ビル)
☎ 054(275)0720
- 甲信営業所 〒 390-0815 長野県松本市深志1-1-15 (朝日生命松本深志ビル)
☎ 0263(38)1220
- 東関東営業所 〒 277-0842 千葉県柏市末広町5-19(第12関口ビル)
☎ 04(7130)0010

中部支店

- 設備システム営業所 〒 460-0004 愛知県名古屋市中区新栄町2-9(スカイオアシス栄)
☎ 052(957)5303

西日本支店

- 近畿設備システム営業所 〒 530-8565 大阪府大阪市北区西天満2-4-4(堂島関電ビル)
☎ 06(6365)4502
- 中国設備システム営業所 〒 730-0017 広島県広島市中区鉄砲町7-18(東芝フコク生命ビル)
☎ 082(224)6251
- 北陸営業所 〒 920-0031 石川県金沢市広岡3-1-1(金沢パークビル)
☎ 076(231)4245
- 京滋営業所 〒 601-8105 京都府京都市南区上鳥羽上調子町2-2(京都研究所内)
☎ 075(662)3418
- 四国営業所 〒 793-0072 愛媛県西条市氷見乙880(四国積水工業株式会社内)
☎ 0897(57)9125

九州支店

- 設備システム営業所 〒 812-0025 福岡県福岡市博多区店屋町1-35(博多三井ビルディング2号館)
☎ 092(271)1314

積水化学北海道(株)

- 建築・ストック営業部 〒 001-0014 北海道札幌市北区北14条西4-2-1(ハーモネートビル)
☎ 011(737)6330

- お客様相談室 【東京】03-5521-0505
【大阪】06-6365-4133

●お問い合わせは上記各営業所へ

エスロンタイムズ on the Web

<http://www.eslontimes.com>



専用の管理ページでさらに便利に!

あなただけのエスロンタイムズ

MYエスロン

*印刷のため色調は実物とは異なる場合があります。
*記載事項は予告なく変更する場合があります。

不許転載

1997年 9月 初 版
2016年 6月 改訂16版-7刷

エスロン接着剤
カタログ

積水化学工業株式会社
管材事業部

ツールコード

No. 05143

2016. 6. 15TH TX